

特集：卒業

はなむけの言葉に代えて —— 最後の長い話 ——

松崎 治 (元 筑波大学 生命環境系)

私は、みなさんの入学時から三年間のクラス担任でしたが、みなさんが卒業研究に取り組んだ四年次には、その職務を学類長にお任せし、クラス担任を全うしないまま退職しました。それにもかかわらず、卒業証書授与式には、卒業生の名前の読み上げをさせていただきました。学類長ほか、関係のみなさま、そして、スクリーンに映るだけの私の姿と声を受け止めてくださった卒業生のみなさんとご家族に、幾重にも御礼申し上げます。名前を読み上げるたびに、ひとり一人の顔と声と仕草を思い出していました。みなさんの個性に触れさせてもらった素敵な三年間であったことを感謝しております。

生物学類を卒業して、大学院に進学したり、実社会に踏み出したみなさんに、はなむけの言葉を贈ることは、職務の現場を退いた私にとって論外のことです。今はただ、皆さんがどうか健康に過ごせますように、また健全に考えることができますように、そして未来を明るく温かく感じる方向に歩めますようにと、遠くから祈るばかりです。

とはいえ、せっかくいただいた機会です。みなさんとお別れた後の感慨を語らせて下さい。みなさんにとってこの一年間は、就職活動や大学院入試の準備をしながら卒業研究に打ち込んだ時間でしたが、私にとっても同じ長さの時間が流れました。

現在、私は妻と共に宮古島で暮らしています。仕事をするための体調管理を薬に頼りながら、それによって新たに具合の悪さを作り出してしまう状況から抜け出せそうに感じたとき、仕事で通ったこの島で暮らそうと決めました。それでも薬が手放せなかったのですから、いまさらながら身の竦む思いです。隆起サンゴ礁のこの島では、人間界の騒々しさを別にすると、海も空も美しく、流れて行く雲さえ見飽きることがありません。生まれてこの方、病院とのかかわりが絶えなかった私にとって、何よりありがたかったのは、年中温かくて湿度が高いことでした。島には個人病院も総合病院も複数あり、離島の患者を先端医療につなごうと努力する医師や、都会との格差を埋めるために独自の工夫をする医師の存在には頭が下がります。しかしながら、ゆるやかな島の時間の中では、天体の運行や気象の変化に身を委ね、鮮度のいい魚と島野菜を食べて暮らすことになり、私は自然に現代医療から遠のくことができました。

この島には、民俗学の研究者が多く訪れます。島に通い始めて間もないころ、研究者は島から持ち出すだけで島に何も返さなと言われていたことがありました。中央から地方を見ていたらそうなることが今ならわかります。辺縁部では自然も文化も政治もホットです。中央を地方から見ることができるようになると、島には暮らせる状況が多様にあることが、価値観の違いとしてわかってきます。島は、いわば箱庭のようで、根強く残る島独自の文化土壌の上に、都会のものが典型的に乗っています。そこに生じる隙間に、余所者は身を置くことができます。近代化の

波は絶えず押し寄せますが、文明の時間を経ない急速な近代化は島社会の表層に留まっていて、台風がさらってくれますから、島固有の文化が消え去ることはないだろうと楽観しています。一方で、言葉は乱暴ですが、数百年の歴史を踏まえた野蛮には秩序があり、そこでは混沌さえも認知されていて、どこまでも人の心の形に沿った構造をしているようです。つまりは、自分の中の野蛮と混沌を見直して、人間という生き物が一層愛おしくなっているのです。

未曾有の大災害をもたらした2011年3月11日の東日本大震災に触れないわけにはいきません。みなさんもそれぞれの場所で体験した通りです。大学のスタッフは、各自が緊急時の持ち場で懸命に働いていました。私の職務の一つに、担当するクラスの学生たちの安否確認がありました。送信したメールへの返信を待ちながら、私自身が一番動揺していたようです。みなさんの無事が確認できたときの安堵感は忘れられません。

民間信仰が息づくこの島には、集落を抱いて祈りの行事を執り行う役割の女性たちがいます。在職中の仕事の傍ら、そういう人たちの暮らしに触れているうちに、祈りの意味が感じられるようになっていました。それぞれの人生でそれぞれの身の上に起きることは、それぞれで抱えていくしかないとはいえ、突然起きる理不尽な出来事に、心の空白が埋まらないこともあります。私はこの島に野生スングスの観察に通ったのですが、人家棲の動物だったために、島の農村部の暮らしに寄り添うようになり、ただ祈るという人間の業を改めて知りました。

天変地異や戦乱に遭遇しなくても、人生の通過儀礼として自分の前に立ちだかる自分だけの障害があります。通過するたびに新しい世界が開けて、以前とは違った道が現れます。その人がそのことに幸せを感じるかどうか、私には分かりませんが、少なくとも好奇心は刺激され、味わい深い人生になること請け合いです。

人はこの地上に不平等に生まれ落ちますが、あなたの人生はあなただけのもので、いずれ、あなただけの花が咲きます。それがたとえようもなく見事な花だということは、不器用で傍迷惑な人生を歩んできた私にも納得できます。唐突な話で、説得するつもりもありませんが、みなさんひとり一人が自分で納得できるような見事な花が咲くことを私は信じて疑いません。

いつものように、私の話は科学から離れて空想の世界を漂い始めました。みなさんに語る機会は、これが最後です。さようなら。次にいつかどこかでお会いしたときには、あなたの話を聞かせてください。

Contributed by Osamu Matsuzaki, Received April 12, 2013.